

『平成二十六年度
活動の参考になる行事等』

- (1)十一月二十二日(土)
午後一時三十分～
「柿本人麻呂の歴史的背景を探る―安来の御神像を巡って―」
川島美美子
会場：安来市中央公民館
- (2)十一月二十二日(土)午後二時～
「茂吉と人麿論」 秋葉四郎氏
会場：益田駅前ビル
- (3)十一月二十三日(日)
～二十四日(月・祝)
バスツアー「恋と神話の旅」
益田から出雲まで、人麻呂の恋と神話の縁の地を巡ります。
ぜひご参加ください。
参加費：二万円程度(泊二日)
- (4)十二月十四日(日)午後二時～
「柿本人麻呂の謎」
川島美美子
会場：大田市五十猛町「大浦座」
―五十猛の御神像を巡って―
- (5)平成二十七年二月十五日(日)
「ヒト・マル」創作オペラ上演
会場：石見芸術劇場(グラントウ)

『総会開催報告』

期日：七月二十一日(月・祝)
会場：島根大学
一、挨拶
川島会長、島根大学福田教授
二、議事
平成二十五年事業報告、収支決算報告【承認】
平成二十六年事業計画(案)、収支予算(案)【承認】
【質疑応答】
①会員の内訳について
島根県に事務局があるせいか、現在は島根がやや多いし、団体も石見中心の観光関連の団体がやや多いです。(当日出席の副会長木谷氏から、鳥取県の今後の勧誘促進についてのご挨拶がありました。)
②ガイド養成について
新しい万葉のスポットについての講演会等も実施して、各地の万葉の振興を図っていきたいと思います。県外の誘客を図り、それに対応できるしくみが広範囲の形でネットワーク化していくるとよいと思います。
③パンフレットの作成について
内容の調査・構成等がまず必要であり、その後、しかるべき業者に依頼する形になると思います。



平成二十六年度
山陰万葉を歩く会総会

平成二十六年七月二十一日、島根大学教養講義室棟二号館にて、山陰万葉を歩く会総会・講演会を行い、午後は国庁周辺(松江市大庭町辺)を中心に見学会を行いました。
会場には約八十人の会員がいらっしやう、見学会には、バス二台、約四十人の方々にご参加いただきました。

この会が発足してからまだ一年も経ちませんが、初めての松江を会場にしての開催に、このように多数の方のご参加をいただきましたことに感謝申し上げます。
また、島根大学の福田景道先生(山陰万葉を歩く会・理事)には、大変お世話になり、お蔭様で滞りなく盛會裡に終えることができました。ありがとうございました。



川島会長による開会の挨拶

本会の副会長・木谷清人氏及び理事の金指眞澄氏などご参加の方々は、鳥取の会員の方をはじめとして、米子、安来、地元松江の方々も新しくご参加いただきました。益田、江津、大田からもバスや列車で来ていただきました。総会については、八頁にまとめいておりますので、ご覧ください。(事務局)

講演・発表の内容につきましては、次の通りです。

- ➊ 基調講演会
柿本人麻呂の魅力
―石見と大和を中心に―
島根県立短期大学 村上桃子氏
平成二十六年度の本会の目標の一つは、大和(奈良県)との交流ですので、その理解を深めていただくために、村上先生にご講演いただきました。
柿本人麻呂は七世紀後半の大和の朝廷で、大活躍をした人です。が、万葉集にしか当時の足跡は伝わっておりません。村上先生には、その歌の言葉使いなどを織り交ぜて、わかりやすく、感動的にお話いただきました。
- ➋ 発表1
北陸の万葉の魅力
―高岡市万葉歴史館を
中心に―
石見芸術劇場(グラントウ)館長 末成 弘明氏
万葉集は奈良時代の歌集ですが、日本で初めて、日本語で日本人の心を歌い上げた、庶民から天皇までの歌を四千五百首ほ

「山陰万葉を歩く会」 ご入会のご案内

■「山陰万葉を歩く会」の概要

- 会長 川島 美美子(風土記を訪ねる会代表)
- 副会長 木谷 清人(鳥取市公益文化財団理事長)
- アドバイザー 藤岡 大拙(荒神谷博物館館長)
- 内田 賢徳(萬葉学会代表)
- 末成 弘明(いわみ芸術劇場館長)
- 年会費 個人2千円、団体1万円

■会費の振込先

- ①ゆうちょ銀行 一三九店 当座 0052297
山陰万葉を歩く会
- ※ゆうちょ銀行口座からの振込は、口座記号番号 01340・4・25597 ※会報に同封の振込用紙を使うと手数料無料
- ②山陰合同銀行 江津支店 普通 3659557
山陰万葉を歩く会 会長 川島美美子

■申し込み・問い合わせ先(事務局)
江津市役所 商工観光課 観光振興係
電話 0855・52・2501
FAX 0855・52・1379
メール shokokanko@city.gotsu.lg.jp

- ➌ 発表2
風土記と万葉の魅力
―出雲国を中心に―
山陰万葉を歩く会 会長 川島 美美子
数年前から、出雲では古事記成立後千三百年と出雲大社御遷

『編集後記』

七月に総会とそれに付随する講演会・見学会を開催しました。多数の幅広い層のご参加に感謝します。
その後の、奈良県の見学会・交流会も有意義に、盛會裡に終わりました。この数カ月間で新しい会員の方も三十余名増えましたし、関連行事(万葉フェスティバルin因幡(十月十九日))もありました。
今後、大田市五十猛町大浦座(問合先・三井淳氏・TEL:090-9068-4866)と、安来市中央公民館(問合先・佐々木弘氏・TEL:090-7541-8140)で柿本人麻呂の講演会があります。また益田市観光交流課(問合せ先・TEL0856-31-0106)で第一回人麻呂顕彰の全国短歌大会講演会(秋葉四郎氏)表彰式と石見の万葉旅行が計画されています。
万葉集の魅力は、短期的には爆発しませんが、徐々に広く、浸透しています。今後ともご支援、ご指導よろしくお願いいたします。(事務局)

宮とすることで、全国的にも注目を集めています。確かに、出雲は古代において、様々な歴史的文獻に残る神話の舞台になっていたと考えられています。が、実は、もう一つ全国的にも誇れる古代の文獻『出雲国風土記』(七三三年成立。唯一完本として現在まで残っている全国的にも貴重な文獻。)があります。
古代に日本という国家がどのようにに成立していったのかはわかりませんが、考えられるのは、その地方で宮々と地道に国造りを行っていた土着の勢力、国造の存在が、歴史的に推定されています。その地方勢力と調和をはかりながら、中央(大和)で大きな勢力をもち、全国を統一しながら、日本という国家を造りあげていった、大和朝廷の存在も推定されています。
『出雲国風土記』は、国造の手で造られ、万葉集は、中央から地方を管理するために派遣されてきた国司の作った歌を載せている歌集です。
風土記は出雲国造である出雲臣の思いを伝えていますし、万葉集は出雲国の国司である門部王の思いを伝えています。当時の時代背景を考えながら、二つを読み比べると、地方

と中央のあり方や二人の人間関係などを推測できて、興味深いものがありました。

右の外に、講演会と発表の間に、出雲文化伝承館副館長 大谷香代子氏による、万葉集の披露がありました。



大谷氏による万葉集の披露

今年の一月十三日の万葉フェスティバルでは、早苗ネネ氏によって、柿本人麻呂の「石見相聞歌」の作曲発表があり、とても好評でした。万葉集は、古代においては、まず詠われていたと思われまふ。歌は詠うことによりその心が相手に訴えかけて、ストレートに伝わるものでしょう。

急遽でしたが、申し出を快く受けていただき、披露を行って下さいました。大谷香代子氏は半世紀近く香道を究めていらつ

言葉遊び連想ゲームの新古今風も良いですが、やはり万葉の人間賛歌自然賛歌の和歌は、見る人聴く人の心を力強く引きつけてやまないものだ、今度あらためて認識したように思います。

① について

披露「万葉集を楽しむ」

因幡万葉歴史館 館長

金指 眞澄氏

「山陰万葉を歩く会」総会の報告や講演を聴く機会をいただきました。その中で、大谷香代子氏による和歌の披露は、格調高く優雅で聴いている者まで、豊かな気分にならせていただける

しゃり、そのご縁で京都の冷泉家から直伝として、披露も究めていらつしゃいます。

初めに披露のご説明があり、その後実際に披露をしていただきました。最後は、約八十名の参加の方々が一緒に披露をなさいました。あらためて、万葉集は詠うものだと再確認をすることができました。

見学会

風土記と万葉とのゆかりの地を巡る

ハコース順路

- ① 島根県立八雲立つ風土記の丘 展示学習館
- ― 出雲の国の中心を見る ―
- ② 神魂神社と正林寺との周辺を巡る
- ― 出雲の国造館を見る ―
- ③ 出雲国庁跡を巡る

- ― 人々の暮らしを見る ―
- ④ 意宇川河口から阿太加夜神社の歌碑までの道を歩く
- ― 万葉の歌に思いを馳せる ―

出雲国（島根県東部）は、『出雲国風土記』が残っていたり、出雲国の中心であった国の役所（国庁）の発掘調査がかなり

ものでした。

今日まで、間近に披露を聴くこともなく、声を出して和歌を詠うなどということは、日常的に行うことはありませんでした。せいぜい当館で年に一回行う「万葉集朗唱の会」で、自己流で万葉集を音読することくらいでした。今回の講演で、冷泉家に伝わる正統披露を聞かせていただきました。冷泉家は歌人として名高い藤原定家のご子孫で、歌学をもって朝廷に使えてきたことで知られています。近年の皇室の歌会始は、冷泉家流の披露だということも知りませんでした。

万葉人は、どのような歌会を開いていたのでしょうか。大宰府で、大伴旅人が多く歌会をし、たくさんの歌が残っています。歌人を集め、歌を詠んだり、詠んだ歌を披露したりして楽しんでいたのであろうと想像を巡らしながら聴きました。

万葉集を楽しむ方法は様々です。万葉集をじっくり読み研究する、その時代を探索する、万葉集を書いてみる、万葉の故地をめぐる、万葉食を食べる…。

時間に追われる日々ですが、時には万葉時間に浸り、万葉集を詠ってみることも、万葉集の

進んでいたりで、出雲の国の中心が、古代どのように開けてきたのかがわかりやすいため、そこを中心に見学会が行われました。

松江市大庭町辺には、出雲国の最大の前方後円墳（全長約百メートル、六世紀後半）があり、その周囲にはたくさんの貴重な古墳が密集しており、その台地を中心に、出雲国造の勢力があったと推定されていました。その台地の下を流れる意宇川を中心

に七世紀には開拓が進んで、出雲国の国の役所（国庁）が次々と作られたようでした。

門部王は大和でも、皇族の一

人（天武天皇のひ孫）として活躍し、出雲の国司として派遣されて、万葉集に載る歌を作っています。

参加者の四十名の方々は、風土記の丘の本間恵美子館長のご説明を聞きながら、出雲大社の祭祀も行っていただけられる出雲国造と、出雲国司の門部王とはどんなやりとりをしたのでしょうか、などと様々な思いを馳せておられました。

楽しみ方だということを学びました。

因幡国庁跡に立つと大伴家持が、この因幡国庁で、新たなしき 年の始めの 初春の 今日降る雪の いや重けよごとと詠った声が聞こえてくるようです。

② について

北陸の万葉の魅力 ― 高岡市万葉史館を 中心に ― を聴講して

江津市観光協会 所長

渡利 正氏

山陰万葉を歩く会総会に合わせ、いわみ芸術劇場館長末成弘明氏の講演を、十五年前に高岡市を訪問した時のことを思い出しながら聴講しました。お話しは、大伴家持や高岡の自然や歴史的な建造物のことを映像を絡ませて幅広くお話しになり、懐かしさ、そうだったのかと言う事まであり、楽しく聞くことが出来ました。

私事ですが、当時、商工会議所に勤務し、観光部門の担当を

会員の感想

七月二十一日の感想

① について

「人麻呂の魅力」

出雲文化伝承館 副館長

大谷 香代子氏

柿本人麻呂は万葉歌人で歌聖として名高く、また歌会が行われる時に床の間へは人麻呂の肖像画を掲げて「人麻呂影供」という歌会を行ったことなどは知っていました。公家衆などで行われる歌会においては、和歌を声に出して詠いあげる披露が行われることも、知っていました。ところが、当たり前のことその二つが、当たり前では結びついていませんでした。その点を反省させられました。

この度、総会の基調講演を拝聴させていただき、万葉の大きさ、自然と共に生きている人間の姿やその頃の人の息遣いまでも感じさせ、思い起こさせる詩句のふしぎさについて新たに考えさせられました。わけても枕詞は、呪術起源のものであり、聴覚的にも詩的な機能をはたしているといえます。村上先

しておりました。高岡市伏木に日本製紙があり、江津工場の工場長さんが高岡へ転勤となり、その方から「万葉」と「銅器生産日本一の町」高岡市へ視察にいらつしゃいとお誘いがあり、市の課長や商工会議所の事務局局長や彫刻家の田中俊晴先生等と一緒に訪問し、万葉ゆかりの地や銅製品製造の店をご案内していただきました。

当時も江津市には万葉を観光振興の柱にする計画があり、市民からはシンボル（銅像）を設置する構想が寄せられていました。幸い地元には田中俊晴先生がおられ、その後の「人麻呂とよさみ姫」の銅像設置につながる視察でした。

現在、私は江津市観光協会所長として、銅像のある高角山公園をはじめとする江津の観光地を紹介しています。末成先生の講演は、市民団体の活動の支援と、今後より多くの方々が万葉に興味を持つていただくための活動の参考になりました。同時に、この講演を聞いて再び甦った当時の熱い思いが最近の私の仕事への原動力になっています。あらためて感謝したいと思います。

生の基調講演を通じて、和歌は聴覚に伝わる口誦詞章であることをはっきりと確認させていただきました。

理性的で、言葉遣いもロスの無い素晴らしいご講演を聞かせていただきました。会長川島美美子氏著『人麻呂さん石見に生きて恋して』を読むと、もう人麻呂さんのゆかりの地への心身共にひっぱって行かれそうになり、魅力あふれる人麻呂さんへの大讃美の著作だと思えます。

日本語の始まりは定かでないと言われますが、中国より移入された漢字をうまく応用して音表文字である仮名文字を創りだし、形・意味・音を有する漢字と巧みに連動させて豊かな日本語という言葉の道が拓かれました。人麻呂あたりが多分に影響したと思われまふ。

和歌（後の歌）の意味は、「和」という意味あいが、長い年月をかけて日本人の基本的な心情にまで広がっていったことであり、また、人と人との心が和した歌が和歌だといわれます。

明治の新風の中で、兼題和歌の形骸化を指摘するあまりに、敷島の道（和歌の道）が、文章理解に重きを置く短歌に流れ行ていきました。そのため、聴覚

山陰の万葉歴史探訪 初めての参加

NPO法人「松江まちづくり塾」
副会長 板垣 麻美氏

七月二十一日に、「山陰の万葉 歴史探訪」講演会と現地見学会」に参加させていただきました。それまではほとんど知識のなかった私ですが、石見国の柿本人麻呂、出雲国の門部王、それぞれの在りし姿について思いを馳せることができる一日となりました。



島根県立八雲立つ風土記の丘展示学習館を見学

人麻呂さんの詠んだ歌は、村上桃子先生の基調講演で紹介されました。大和で詠んだ歌「吉野賛歌」「安騎野の歌」は、天

皇家の方々に心を配り、お仕えしている役人らしい冷静な姿が感じられる歌です。一方で、石見で詠んだ歌「石見相聞歌」は、他者への意識がうかがえる整った大和の歌とは全く異なり、自分の思いをダイナミックに表現しています。同じ人物でも本当に表現の異なる歌は、大和にいる時と、地方に赴任している時との、国司の心の在り方の違いをそのまま表しているのでしょうか？

「国司は、大化の改新（六四五）以後に中央から各国に赴任した地方官。地方豪族たる国造との関係は微妙であり、改新政府の当局者も国造の在来の権利・権益を急に侵すことのないよう配慮しなければならなかった。…大化から大宝までの半世紀は中央政府⇨国司の権力伸長、地方豪族⇨国造の勢力後退のプロセスとしても捉えることができる。（『国史大辞典』より）」

川島美美子会長の講演を聴き、出雲国における国司と国造との人間関係はどうだったのだろうか、とても興味をひかれました。門部王が出雲国の国司を務め

ていたのが出雲国風土記編纂の頃だとすると、すでに大宝令が制定された後であるし、門部王はもともと身分の高い人でもあったので、国造に気を遣う必要はなかったように思えます。しかし、出雲国風土記は他の地方と異なり、出雲国造出雲臣広島が編纂しています。彼らは良好な関係でお互いを尊重し合っており、出雲国風土記を完成させたのでしょうか？あるいは、何らかの取引によって国造が風土記を編纂することになったのでしょうか？そんな想像をいただきながら、午後の現地見学会では、八雲立つ風土記の丘の復元模型、出雲国造館跡や出雲国庁跡などを見学しました。



出雲国府跡の再現図

中央から遠く離れた地に赴任する国司のせつなさややるせなさ、出会いと恋人との別れ、国造の地方豪族としてのプライド

として、奈良市一帯に二万本のろうそくに火がつく行事もあり、それも見学することになりました。

八月五日の午後一時三十分より見学会が始まりました。高岡市万葉歴史館館長で、奈良女子大学名誉教授の坂本信幸先生が二十頁に及ぶ、くわしい資料を作って下さり、誰にでもわかるように、しかも冗談を交えながら楽しく丁寧に、説明をして下さいましたので、参加なさった方々は、とても満足され、ますます大和の人麻呂さんに興味をもたれたようでした。

見学会の行程

八月五日

- ①近鉄奈良駅前↓(山辺の道・飛火野・春日野・三笠山・高円山・崇道天皇陵・円照寺)↓②和迹下神社・歌塚・柿本寺跡↓(和迹坂・和迹坐・赤坂比古神社)↓③石上神宮↓(手白香皇女・田原・倉道・引手の山・崇神天皇陵・景行天皇陵・箸墓古墳・巻向山・弓月が岳)↓(狭井神社・松原神社)↓④万葉公園↓(宇陀野・阿紀神社)↓⑤阿騎野

また、その夜は「なら燈花会」の初日で、奈良公園を中心



島根県西部県民センター 福岡所長ご挨拶 (交流会)

やとまどいなど…万葉集にはさまざまな思いが渦巻いていたかもしれないと想像すれば、古代の人たちも激動の時代の中で生きており、自分がその身になれば同じような思いを抱いたのかもしれないなどという親しみをこれらの万葉歌から感じました。

「風土記と万葉とのゆかりの地を巡る」について

益田市観光協会 事務局長 山崎 立志氏

七月二十一日(祝)午後、平成二十六年年度総会を済ませ、会場を出発、私たちは島根県立八雲立つ風土記の丘展示学習館に向かいました。

出雲の中央部に位置する風土記の丘地域は、古代出雲の国造りの中心地でした。七世紀後半になると、この地に国府が設置され、風土記の丘地域は、出雲国の行政・経済・文化の中心を占めます。そして発掘調査により古代都市の姿を明らかにしています。展示の千分の一の模型もその当時をわかりやすく伝え

(一)の中は、坂本先生が、バスの中で、該当の場所が見えるようになります。資料を使いながら、歴史的背景や万葉の歌の中での意味にふれて説明をしていただいた所です。半日の行程として、随分たくさん盛りこんでいただきました。人麻呂ゆかりの地としては、もれなく訪ねることができる素晴らしい行程でした。

②の和迹下神社は、人麻呂の属する柿本氏の本流である和迹氏の重要な古墳の東大寺山古墳もあるし、人麻呂像(石像)もあるし、様々に、柿本人麻呂さんに対して、イメージのふくらむ場所でした。



和迹下神社の人麻呂石像

巻向山の周辺も詳しくご説明いただきました。六日には先生

てくれます。

その後、神魂神社、正林寺周辺に向かいました。出雲の国造りにも関係の深い神社です。社殿は大社造りの中でも最も古く、出雲大社より四百年も前の室町時代とされています。社殿は国宝。境内に上がる参道、急な階段、見えてくる本殿には独特な雰囲気を感じられました。

神社近くの出雲国造家の墓地、正林寺も訪れました。曹洞宗のお寺で、出雲国造家の菩提寺と伝えられており、中世の五輪塔も残されています。また、その近くの出雲国造の館跡も見回りました。



神魂神社を訪ねる

そして出雲国庁跡に向かいました。七世紀の中ごろから造成

の揮毫なされた歌碑(柿本人麻呂の「泣血哀慟歌」)の前から、再度それらの山々を遠望したので、「大鳥の羽易の山に我が恋ふる妹はいますと人の言へば」の羽を広げたような山の形を確かめることができました。



阿騎野の人麻呂石像

八月六日 午前九時出発ー十二時到着 近鉄新大宮駅前↓(帯解寺・葛城連山・二上山・忍坂の宮跡)↓(舒明天皇陵・鏡女王の墓・大伴皇女の墓)↓大和神社↓大神社・三輪山↓(竹内峠・竜田峠)↓香具山・耳梨山・畝傍山・藤原京跡↓(飛鳥池工房遺跡・奈良県立万葉文化館・飛鳥板蓋宮・雷の丘・石舞台古墳)

葛城では、葛を頭に付けることでの呪術の意味を話され、二上山では、雄神雌神の信仰の話や、大津皇子の悲劇の話が聞きました。大和神社は、倭大魂大神を祀り、大神神社は、大物主大神を祀る神社でした。香具山耳梨山畝傍山の大三山では、

された国ごとにおかれた国の役所のひとつです。そこは、古代の条里制の地割を残しており、また役所の事務や鍛冶などの役割分担についても伝えていきます。その後国庁跡発見のきっかけとなった地名を残す石碑がある六所神社に向かいました。



阿太加夜神社へ

興味はあるもののなかなか触れることの少なかった出雲地方においてのツアーであり、石見では感じることでできない万葉の見学会でした。

平成二十六年八月五日、六日の万葉旅行

人麻呂さんを大和に訪ねる旅

七月二十一日の村上桃子氏の講演会で、石見と大和の人麻呂

万葉歌の男女三角関係をどうとらえるかのお話がありました。藤原京跡はあらためて、その広さを実感しました。

十二時〜十三時 明日香村

「あすか野」で昼食

地元の食材を使ったお弁当を、明日香村の森川裕一村長と、坂本信幸先生を囲んでいただきました。

森川氏は三年前に村長に就任なさり、「明日香まるごと博物館づくり」構想を作って、地域活性化戦略の一つとして、全国各地にトップセールスを行っていらつしやる方でした。



明日香村の森川村長

明日香村の保存と活性化のバランスの問題点を見据えて、いかに明日香の魅力をもっと発信していくか等の話も食事前にお聞きしました。食事後は、参加の方々に自由に席替えをしていたり、村長さんや先生との懇談会となりました。それぞれに有

益なひとときでした。
見学会 十三時〜十四時

島の宮・石舞台↓(川原寺跡・橋寺境内) ↓飛鳥橋寺万葉歌碑(羽易山遠望) ↓大和新庄柿本神社・影現寺↓近鉄大和新庄駅

島の宮故地を背景に全員で集合写真撮影。坂本先生が選ばれた最適の地に先生の揮毫になる歌碑があり、人麻呂に思いを馳せながら、説明を聞きました。旧新庄町大字柿本に存在する柿本神社に参拝。社伝では、石見国で逝去した遺骸をこの地に葬り、建立したとあり、本殿脇に「人麻呂塚」がありました。



柿本神社の人麻呂塚

人麻呂さんゆかりの地を訪ね巡り、最後に石見の人麻呂さんに出会えた旅でした。
大和新庄駅で坂本先生に感謝

を述べて、名残惜しくお別れをして、一同帰路につきました。

奈良県では、「生まれ変わった(記紀・万葉の扉)を開けて、ほんものの奈良を見つけよう!」というフェイスイブツクを立ち上げ、県全体で「なら記紀・万葉」に、平成三十二年(日本書紀成立千三百年)まで取り組んでおられ、今回の旅は、刺激的で勉強になりました。

会員の感想

八月五、六日の感想

五 について

山陰万葉を歩く会 会員

山本 節子氏

一年で一番暑く、そして忙しい時の奈良万葉旅行の事を聞きました。けれども、その訪問地を知るやすく参加したいと申し込みました。

松江で待っていると、豪華な大型貸切バスが来ました。ゆったりとした座席、クーラーも快適、一路奈良へ。二十一世紀の日本列島は高速道路が整い、年老いた私ども庶民でも、たちまち古都へと乗せて行ってもら

えます。なんて幸せな時代でしょう。
バスはまず山の辺の道→日本最初の国道一号线を大和平野を守るよう優しく続く山並みにそって進みます。そこには歴代の天皇、皇族の墓など遺跡が残っています。



参加のみなさんで記念撮影

バスには坂本先生という偉い先生が乗って下さり、バスの中でも時間を惜しんで、つぎつぎと現れる遺跡を解りやすく教えてください。はじめ沢山書

き込んであるプリントを見た時、こりや難しいと思いました。が、先生のお話を聞きながらプリントを見ますとよく解り、なんて豪華なバス旅行!と胸一杯の感動でした。

まわりはのどかな平和な大和の里、けれどそこには千年の昔の遺跡が奇蹟のように物語と共に残されています。

出雲は神話という形に棚上げされていることもあって、またその時代には文字がまだ稀であったのか、歌が少なく、あつたけれども残っていないのかもしれない。

私が一番に行きたかったのは、阿騎野でした。

東の

野にかぎろひの 立つ見えて かへり見すれば 月かたぶきぬ

という歌から思い浮かぶ雄大な原野をみたいという年来の望みがあったからです。

例えば、頼朝の富士の巻狩り、家康の武蔵野の鷹狩、さては蒙古の砂漠のような広大な原野を想像していました。

ところが、阿騎野は和やかな山里でした。また、雷の丘もこもりとした優しい丘でした。

り、時に不安材料であったが、今回の交流でいただいた極めて新鮮な印象と刺激的な活動ぶりを今後、自分なりに仕事の楽しさに活かしていきたいと思っている。

万葉フェスティバル

in鳥取

十月十九日に鳥取市国府町の因幡万葉歴史館を中心に、「万葉フェスティバルin鳥取」が開催されました。設立二十周年目の祝賀の行事でもありました。大伴家持大賞の表彰式の後、講演「山陰の万葉歌人」(会長・川島芙美子による)があり、続いて対談「山陰の万葉歌人と大伴家持」がありました。元因幡万葉歴史館学芸員・中村和之氏と会長・川島芙美子との対談でした。



川島会長の講演



泣血哀慟歌の歌碑と羽易山

これは、どういうことでしょうか。ただただ人麻呂という偉大な歌人の魂とその才能に驚くばかりです。

そしてその歌はどんな具合に発表されたのでしょうか。

軽皇子の狩という大切な意味を持つ公式行事には、人々の心を高揚させる必要があります。

それを目的としてつくられた歌はマイクもなしに朗々と謳いあげられたのでしょうか。それは、安来節のお糸さんやビートルズやジャニーズのようにだっただでしょうか。オリンピックの開会式の大会宣言や国歌を歌うようにでしょうか。

安来千軒 荷物にやならぬ 聞いてお帰れ 安来節

対談の内容は、大伴家持の新年立春を寿歌は、様々の解釈をもつことと、国司(国を管理する役人)として来た家持も人麻呂も、当時の山陰の重要性を十分認識して、勤務していたのではないかということでした。



対談の様子

家持の「いや重げ吉事」には、流動する奈良後期の国内政治情勢を踏まえて、朝廷(特に天皇)への誓詞と日本全体の繁栄を宣言する志が酌みとれることや、中央と地方の関係の重要性を十分意識していたこと等が語り合われました。この志については、国造り前後の時期に石見に来た、柿本人麻呂にも共通する志のように感じられました。

歌は軽くて持ち運びが楽ですから、阿騎野や雷の丘をみるこゝが出来る人は少数だった時代に、人麻呂の歌は何処へでも運ばれて行きました。そうして人々は人麻呂の歌に感動し、その称えられたものを尊敬しました。

人麻呂に歌わせた大和朝廷の支配者は賢いと思えました。

六 について

新鮮かつ刺激的な交流会

奥出雲町

神話とわたらの里推進室 室長

(奥出雲たたらと刀剣館 館長

／雲州そらばん伝統産業会館

館長)

尾方 豊氏

万葉には全く門外漢の私が、縁あって山陰万葉を歩く会の「大和の人麻呂さんを訪ねる旅」に参加させていただいた。坂本先生のガイドは素人の私にもわかりやすく引き込まれるような楽しさと魅力に満ちたものであったが、今回は初日の「交流会」に絞って感想を述べたい。

《地域の宝を的確にとらえ熱心に語る姿は刺激的》
皆さんの万葉に対する思いもさることながら、地域づくりや地域振興、観光振興の核は「地域の誇るべき歴史や伝統そして文化」であると、皆さんの確に語られる姿は刺激的であった。私は町村役場の中では社会教育担当、地域振興担当、商工観光担当などする機会があり、

《極めて新鮮》
集まったメンバーと交流会の運営が新鮮。
今回の山陰からの我々万葉の旅人を受け入れてくださったのは、奈良県庁の奈良の魅力創造課の方をはじめとして明日香村、橿原市、桜井市、天理市、宇陀市、御所市の行政(総合政策や観光部門)の方や観光協会や文化協会の役員の方、万葉に関する文化館の館長さんや友の会の皆様方、そして第一線で活動するボランティアガイドの皆様方であった。

交流会の内容も、前面には絶えず、ボランティアガイドとして第一線で活動を続ける皆さんが立たれており、それを行政が組織的にバックアップするという運営が、自然に行われていた。

交流会の内容も、前面には絶えず、ボランティアガイドとして

第一線で活動を続ける皆さん

が立たれており、それを行政が

組織的にバックアップするとい

う運営が、自然に行われていた。

《地域の宝を的確にとらえ熱心

に語る姿は刺激的》

皆さんの万葉に対する思いも

さることながら、地域づくりや

地域振興、観光振興の核は「地

域の誇るべき歴史や伝統そして

文化」であると、皆さんの確

に語られる姿は刺激的であつ

た。私は町村役場の中では社会

教育担当、地域振興担当、商工

観光担当などする機会があり、

このおさっぱさが特徴でもあ